

2018年度事業報告

(1) 学術集会および会務

A) 学術集会

1. 第66回総会（2018年5月31日～6月2日）
会場：岡山コンベンションセンター 他
会長：尾内一信（川崎医科大学小児科学講座）
2. 第65回東日本支部総会（2018年10月24日～26日）
会場：東京ドームホテル
会長：川名明彦（防衛医科大学校感染症・呼吸器内科）
3. 第66回西日本支部総会（2018年11月16日～18日）
会場：かごしま県民交流センター
会長：森田邦彦（同志社女子大学薬学部臨床薬剤学）
4. 関連国際学会
17th Asia Pacific Conference on Clinical Microbiology and Infection
2018年8月30日～9月2日（香港）

B) 会務

1. 年度末正会員数 8,001名
年度末賛助会員数 24団体、団体会員数 116団体
2. 2018年度評議員会、同定期総会は2018年6月1日に岡山コンベンションセンターで開催された。
3. 新評議員（2018年4月～2019年3月）
東日本支部11名（現在213名）
青柳 哲史（東北大学大学院総合感染症学分野）
荒岡 秀樹（虎の門病院 臨床感染症科）
石金 正裕（国立国際医療研究センター病院国際感染症センター）
金森 肇（東北大学病院総合感染症科）
金城 雄樹（東京慈恵会医科大学 細菌学講座）
黒沼 幸治（札幌医科大学呼吸器アレルギー内科学講座）
添田 博（東京医科大学病院薬剤部）
田邊 嘉也（新潟県立新発田病院 内科）

徳田 浩一（東北大学大学院感染制御・検査診断学分野）

藤居 賢（札幌医科大学附属病院薬剤部）

山田 武宏（北海道科学大学薬学部薬学科臨床薬学部門薬物治療学分野）

西日本支部5名（現在193名）

川口 辰哉（熊本保健科学大学保健科学部医学検査学科）

小泉 祐介（愛知医科大学病院感染症科）

高園 貴弘（長崎大学第二内科）

田代 将人（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科臨床感染症学分野）

中村 竜也（京都橘大学健康科学部）

4. 理事会6回開催

2018年5月（2回）、6月、7月、12月、2019年2月

C) 事業報告

1. 編集委員会

1) 日本化学療法学会雑誌（委員長 館田一博）

・編集委員会 2回開催

・編集状況

2018年 第66巻3号～6号

一般誌 4冊（掲載論文数21編）

2019年 第67巻1号～2号

一般誌 2冊（掲載論文数14編）

その他編集中 2冊

2) Journal of Infection and Chemotherapy（委員長 高橋 聡）

・編集委員会 5回開催

・編集状況

2018年

Vol. 24 No. 4～12（掲載論文数 145編）

2019年

Vol. 25 No. 1～3（掲載論文数 47編）

・電子版を12号、冊子版を2号合併号として6冊発刊した。

・Reviewer of the yearの規程を検討した。

・JIC Award受賞

Toshiya Kimura, et al. (Department of Microbiology, Ehime Prefectural Institute of Public Health and Environmental Science)
「Seroprevalence of severe fever with thrombocytopenia syndrome (SFTS) virus antibodies in humans and animals in Ehime prefecture, Japan, an endemic region of SFTS」24 (10) p. 802-806

3) 用語委員会（委員長 石井良和）

略語（Fidaxomicin、ポサコナゾールおよびテジドリド）の制定、病原体名の変更に関する学会としての取り決め、ICD-11にかかる和訳などについて検討した。

2. 学術委員会（委員長 岩崎博道）

・学術奨励賞受賞者

第66回総会

基礎部門

中野 竜一（奈良県立医科大学 微生物感染症学講座）

「カルバペネマーゼ NMC-A 産生株の発現調節機構の解明」

臨床部門

植田 貴史（兵庫医科大学病院感染制御部／日本医真菌学会関西支部

深在性真菌症研究会／阪神 ICT 活動研究会）

「カンジダ血症患者におけるカンジダ性眼病変の全国多施設調査」

日本化学療法学会雑誌 第66巻4号 p. 504-512

櫻井 紀宏（大阪市立大学医学部附属病院薬剤部）

「MRSA 感染が疑われた発熱性好中球減少症の2次治療に対する Daptomycin および Linezolid の有効性・安全性に関する後方視的研究」

Journal of Infection and Chemotherapy vol.24 (7) p. 510-514

竹内 典子（千葉大学真菌医学研究センター感染症制御分野）

「Capsular serotyping of *Haemophilus influenzae* by using matrix-associated laserdesorption ionization-time of flight massspectrometry」

3. 学会賞選考委員会（委員長 宮下修行）

志賀潔・秦佐八郎記念賞および上原感染症・化学療法研究奨励賞の候補者について検討し選考を行った。

志賀潔・秦佐八郎記念賞

受賞者：出口 隆（木沢記念病院）

研究テーマ：「男子尿道炎の原因菌の薬剤耐性に関する研究

特に、淋菌と *Mycoplasma genitalium* について」

上原感染症・化学療法研究奨励賞

受賞者：定平 卓也（岡山大学病院泌尿器科）

研究テーマ：「尿路感染症分離菌の次世代シーケンサーによる網羅的解析・多元的解析と病態制御への応用」

4. 国際渉外委員会（委員長 大毛宏喜）

1) 17th Asia-Pacific Congress of Clinical Microbiology and Infection（香港）

において当学会との共催セッション「Management of drug resistant infections」および「Novel Technologies and Diagnostic Methods」を開催した。

- 2) APSCMI (Asia-Pacific Society of Clinical Microbiology and Infection) Exco electionの候補者について検討し、投票を行った。
- 3) 31st ICC (International Congress of Antimicrobial Chemotherapy; 2019年11月6～9日, ドバイ) において当学会との共催セッション「Treatment Strategy for Drug-resistant Gram Negative Infections」および「Newer diagnosis methods and diagnostic stewardship」を企画した。

5. 3学会合同ブレイクポイント臨床応用検討委員会（委員長 舘田一博）

カルバペネム系抗菌薬のブレイクポイント見直し作業を行った。

6. 抗菌化学療法認定医認定制度審議委員会（委員長 青木洋介）

- ・抗菌薬適正使用生涯教育セミナー開催

年次テーマ：抗菌薬の misuse / overuse を無くす

第46回 2018年6月1日（金）岡山コンベンションセンター

第47回 2018年9月1日（土）東京国際フォーラム

第48回 2018年10月24日（水）東京ドームホテル

第49回 2018年11月16日（金）かごしま県民交流センター 県民ホール

- ・委員会を数回開催した。
- ・第47回の映像収録し、e-learningを作成した。
- ・2018年12月9日（日）に東京慈恵会医科大学で指導医試験を実施した。
- ・本年度指導医・認定医・認定歯科医師新規申請、認定更新申請を受付し、認定した。
- ・2019年1月1日付けで認定証を発行した。

7. 抗菌化学療法認定薬剤師制度委員会（委員長 森田邦彦）

- ・抗菌化学療法認定薬剤師講習会を開催した。

第19回 2018年5月25日（金）九州大学医学部百年講堂

第20回 2018年11月22日（木）神戸国際会議場

- ・認定薬剤師試験を2019年2月3日（日）に東京慈恵会医科大学で実施した。
- ・2019年3月1日付で認定薬剤師を認定した。
- ・抗菌化学療法認定薬剤師テキストの改訂作業を行った。

8. 三学会合同抗菌薬感受性サーベイランス委員会（実務委員長 松本哲哉）

1) 第5回（2013年）

- ・歯科口腔外科領域感染症（初回・726株）
投稿準備中。

2) 第6回（2014年）

- ・呼吸器感染症（7回目:1,534株）
論文を Journal of Infection and Chemotherapy (JIC) に投稿している。
- ・手術部位感染 (SSI)（2回目：883株）
論文を JIC (2017;23(6):339-348) に掲載した。またサブ解析の結果を JIC

(2018;24(5):330-340) に掲載した。

3) 第7回 (2015年)

- ・複雑性尿路感染症 (3回目:833株)
38薬剤の感受性測定結果を解析し、報告書にまとめた。
成績を日本化学療法学会・日本感染症学会合同学会 (2018年5月・岡山)、
日本臨床微生物学会 (2019年2月・東京) で報告し、論文を執筆している。
- ・急性単純性膀胱炎 (2回目:263株)
論文をJICに投稿し、Article in pressに掲載された。
- ・耳鼻咽喉科領域 (2回目:742株)
40薬剤の感受性測定解析し、報告書にまとめ、論文を執筆している。

4) 第8回 (2016年)

- ・呼吸器感染症 (8回目:1,062株)
2017年3月末までに 全国32施設より1,104株を収集した。
42薬剤の感受性測定結果を解析し報告書にまとめ、成績を日本化学療法
学会・日本感染症学会合同学会 (2017年4月・東京) および日本臨床微生物
学会 (2018年2月・岐阜) で報告し、論文を執筆している。
- ・尿道炎 (淋菌) (3回目:85株)
全国30施設より159検体を収集し87株を分離し、そのうち85株について
20薬剤の感受性を測定し、成績を日本臨床微生物学会 (2019年2月・東京)
で報告し、論文を執筆している。
- ・尿道炎 (クラミジア) (3回目)
2017年6月までに全国25施設より199検体収集し、そのうち分離した41株
を増菌培養し感受性を測定中。

5) 第9回 (2017年)

- ・小児科領域感染症 (初回:967株)
全国18施設より967株を収集し、32薬剤の感受性測定を実施している。

6) 第10回 (2018年)

- ・手術部位感染症 (SSI) (3回目) を2019年4月までの期間で検体収集を実施
している。
- ・歯科・口腔外科領域感染症 (2回目) を2019年3月までの期間で検体収集を
実施した。

7) VRE株の収集 (三学会合同リネゾリド適正使用推進委員会からの依頼)

第1回 (収集期間2016年6月~2017年5月) は保存株を含め13株を収集し、
第2回目 (2017年6月~2018年5月) を実施して23株を収集して、感受性測定
の結果を解析して報告書にまとめた。

8) 三学会合同事業10周年を記念し、日本化学療法学会・日本感染症学会合同学会
(2018年5月・岡山) 事業・委員会報告にて特別企画「三学会合同事業10周年
記念討論会~さらに10年後を目指して~」を実施し、日本臨床微生物学会
(2019年2月・東京) ではシンポジウムにて「三学会合同事業10周年特別
企画」を実施した。

9) 2019年計画 (呼吸器感染症 9回目、皮膚科領域感染症 2回目) の測定機関選定

を実施し、呼吸器感染症は（株）マイクロスカイラボ、皮膚科領域感染症は学校法人東邦大学をそれぞれ選定した。

9. レジオネラ治療薬評価検討委員会（委員長 宮下修行）

第66回日本化学療法学会総会（岡山）において、レジオネラのデータ詳細を報告し、JICにサブ解析のデータを投稿した。

10. 抗菌薬TDMガイドライン作成委員会（委員長 竹末芳生）

日本TDM学会と協力して抗菌薬TDMガイドラインの再改訂を始めた。
第1回目の会議を2019年2月23日に行い、今後の作成方針について話し合った。

11. JAID/JSC感染症治療ガイド・ガイドライン作成委員会（委員長 青木信樹）

- ・「JAID/JSC 感染症治療ガイドライン 2018—男性尿道炎とその関連疾患—」を日本化学療法学会雑誌 66 巻 3 号（5 月）に掲載した。
- ・「JAID/JSC 感染症治療ガイドライン 2017—敗血症およびカテーテル関連血流感染症—」の英語版を JIC に投稿した。

12. MRSA感染症の治療ガイドライン作成委員会（委員長 松本哲哉）

新規抗MRSA薬（テジゾリド）に関連した項目を中心に「MRSA感染症の治療ガイドライン 2017 改訂版」のマイナーな改訂作業を行った。

13. 術後感染予防抗菌薬適正使用に関するガイドライン作成委員会
（委員長 竹末芳生）

2016年4月に発表した術後感染予防抗菌薬ガイドラインで、積み残された脳神経外科領域、眼科領域の項目を追加することになった。脳神経外科領域は、当学会から作成委員を選定し、日本脳神経外科学会からレビュー委員が指名された。また、眼科領域は前回の委員が継続することで日本眼感染症学会から承認が得られ、作業を開始した。

14. 小児用キノロン薬適正使用推進委員会（委員長 渡辺 彰）

小児用キノロン薬の使用実態アンケート調査と適正使用に関するサーベイランス調査を和文誌およびJICに掲載した。

15. CDI診療ガイドライン作成委員会（委員長 國島広之）

2018年10月に「*Clostridioides (Clostridium) difficile* 感染症診療ガイドライン」の冊子版を発行し、フローチャートおよびクリニカルクエスチョンのみを日本化学療法学会雑誌に掲載した。

16. 多剤耐性菌に対する治療戦略ワーキング委員会（委員長 三嶋廣繁）

カルバペネム耐性腸内細菌（CRE）による感染症の治療法に関する基礎的検討を、東京医科大学、愛知医科大学、長崎大学で行った。

17. 7学会合同感染症治療・創薬促進検討委員会（委員長 舘田一博）

2018年5月7日に日内会館会議室において下記の講演会を開催した。

製薬協における取組の現状

星野一樹（北里第一三共ワクチン株式会社研究開発企画部）

GARDPにおける取組の現状

工月達郎（DNDi Japan サイエンティフィック・リエゾン）

AMEDにおける取組の現状

藤江 昭彦（日本医療研究開発機構創薬戦略部創薬企画・評価課）

PMDAにおける取組の現状

佐藤 淳子（独立行政法人医薬品医療機器総合機構国際協力室）

18. 抗微生物薬適正使用推進検討委員会（委員長 川口辰哉）

ICD資格保持者の施設に、抗菌薬適正使用支援プログラム（ASPs）現状調査のアンケートを実施し、東日本支部総会および西日本支部総会で報告し、その結果を日本化学療法学会雑誌およびJICに掲載した。

19. 外来抗菌薬適正使用調査委員会（委員長 大曲貴夫）

「抗菌薬適正使用に関するアンケート調査」の結果を第66回総会（岡山）の委員会報告で報告し、日本化学療法学会雑誌に投稿する準備を行った。

20. 関連学会対策ワーキング（委員長 三嶋廣繁）

- ・日本化学療法学会の医師会員を増加させることを目的として関連学会との連携を強化するために、日本DDS学会との合同シンポジウム（長崎）を開催した。
- ・日本感染症学会、日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会、日本性感染症学会、日本泌尿器科学会、日本小児感染症学会、日本呼吸器学会、日本骨・関節感染症学会、日本眼感染症学会、日本消化器病学会、日本外科感染症学会などと合同シンポジウム開催に向けた調査・検討を継続した。

21. 学術集会開催支援ワーキング（委員長 石井良和）

2019年および2020年に開催の各学術集会の予算書および業務委託に関する見積書について確認した。

22. 薬剤耐性感染症を対象とした抗菌薬ガイドライン作成に関する合同委員会（委員長 大毛宏喜）

独立行政法人医薬品医療機器総合機構より、薬剤耐性菌感染症治療薬の臨床評価に関する協力依頼が届き、日本感染症学会と合同で下記について検討を行った。

- ①臨床試験や承認に関する「稀少な薬剤耐性菌（AMR）感染症治療薬の開発のための提言」
- ②主な感染症に関して3極（PMDA, FDA, EMA）との差異の比較表の作成

23. 社会保険委員会（委員長 迎 寛）

医療機器・体外診断用医薬品供給停止品目および経過措置移行予定品目について検討した。

24. 利益相反委員会（委員長 河合 伸）

「日本医学会 COI 管理ガイドライン」の一部改定に伴い、本学会の「医学研究の利益

相反（COI）に関する指針」を一部改定し、10月1日付で施行した。

25. インфекションコントロールドクター（ICD）制度

2018年12月 認定者46名

（2）2018年度事業報告の附属明細書について

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する事業報告附属明細書「事業報告書内容を補足する重要な事項」に記載すべき事項はない。

2019年度事業計画

(1) 学術集会および会務

A) 学術集会

1. 第67回総会（2019年5月9日～11日）
会場：東京ドームホテル
会長：清田 浩（東京慈恵会医科大学葛飾医療センター泌尿器科）
2. 第66回東日本支部総会（2019年10月16日～18日）
会場：仙台国際センター
会長：藤村 茂（東北医科薬科大学薬学部臨床感染症学教室）
3. 第67回西日本支部総会（2019年11月7日～9日）
会場：アクトシティ浜松
会長：岩崎博道（福井大学医学部附属病院感染制御部）
4. 関連国際学会
31st International Congress of Antimicrobial Chemotherapy
2019年11月6日～9日 ドバイ

B) 会務

1. 理事会、評議員会の開催について
理事会年5回、評議員会年1回を予定
2. 関連団体への対応
日本医学会に評議員及び医学用語委員会委員を、日本医師会に疑義解釈委員会委員を、
内科系学会社会保険連合にそれぞれの委員を派遣する。

C) 事業計画

1. 編集委員会

- 1) 日本化学療法学会雑誌
・6冊発行予定（67巻3～6号、68巻1～2号）
・編集委員会を隔月開催する。
- 2) Journal of Infection and Chemotherapy
・電子版を12号、冊子版を2号合併号として4冊発刊予定。
・編集委員会を隔月開催とする。
・JIC賞の選考を行う。

2. 用語委員会

抗菌化学療法用語集の改訂および真菌名に関する学会としての取り決めに検討する
予定である

3. 学術委員会

学術奨励賞を選考する。

4. 学会賞選考委員会

志賀潔・秦佐八郎記念賞および上原感染症・化学療法研究奨励賞の選考を行う。

5. 国際渉外委員会

関連国際会議として、2019年11月6日～9日に 31st ICC (International Congress of Antimicrobial Chemotherapy) がドバイで 開催される予定である。

6. 三学会合同ブレイクポイント臨床応用検討委員会

カルバペネム系抗菌薬のブレイクポイントを発表する予定である。

7. 抗菌化学療法認定医認定制度審議委員会

①抗菌薬適正使用生涯教育セミナー

- ・抗菌薬適正使用生涯教育セミナー開催予定

第50回 2019年5月9日(木) 東京ドームホテル

第51回 2019年6月8日(土) 東京国際フォーラム

第52回 2019年10月16日(水)～18日(金) 仙台国際センター

第53回 2019年11月7日(木) アクトシティ浜松

- ・1日コースを映像収録し、e-learning を作成する。

②抗菌化学療法認定医および指導医の資格認定

- ・2019年10月末 指導医・認定医・認定歯科医の認定申請を締め切る。
- ・2019年12月1日 指導医試験を実施し、認定申請審査の委員会を開催する。
- ・2020年1月1日付けで認定する。

③抗菌薬適正使用生涯教育テキスト

- ・改定版(2013年)以降の新しい薬剤などを含み、改定第3版を刊行予定。

上記事業計画を円滑に遂行するため、委員会を数回開催予定。

8. 抗菌化学療法認定薬剤師制度委員会

- ・第19回講習会を日本TDM学会前日の2019年5月24日(金)に、コングレスクエア 日本橋において開催する予定である。
- ・第20回講習会を日本医療薬学会年会前日の2019年11月1日(金)に福岡国際会議場にて開催する予定である。
- ・認定薬剤師試験を実施し、認定を行う予定である。
- ・2020年3月1日付けで認定証発行する予定である。
- ・抗菌化学療法認定薬剤師テキストの改訂作業を引き続き行う予定である。

9. 三学会合同抗菌薬感受性サーベイランス委員会

1) 第5回(2013年)

- ・歯科口腔外科領域感染症(初回・847株)
論文をJICに掲載する予定である。

- 2) 第6回(2014年)
 - ・呼吸器感染症(7回目:1,534株)
論文をJICに掲載する予定である。
- 3) 第7回(2015年)
 - ・複雑性尿路感染症(3回目:833株)
論文をJICに掲載する予定である。
 - ・急性単純性膀胱炎(2回目:263株)
論文をJICに掲載する予定である。
 - ・耳鼻咽喉科領域(2回目:742株)
40薬剤の感受性測定結果を解析後報告書にまとめ、引き続き論文を執筆する。
- 4) 第8回(2016年)
 - ・呼吸器感染症(8回目:1,105株)
論文をJICに掲載する予定である。
 - ・尿道炎(淋菌)(3回目:87株)
20薬剤の感受性測定結果を解析し、報告書にまとめる予定である
 - ・尿道炎(クラミジア)(3回目)
培養(58株)後、感受性測定が可能な株について9薬剤の感受性を測定し、
解析後報告書にまとめる予定である。
- 5) 第9回(2017年)
 - ・小児科領域感染症(初回:776株)
32薬剤の感受性を測定し解析後報告書にまとめる予定である。
- 6) 第10回(2018年)
 - ・手術部位感染(SSSI)(3回目:目標1,000株)
2019年4月末までに菌株を収集し感受性測定を実施する予定である。
 - ・歯科・口腔外科領域(2回目:目標400株)
2019年3月まで検体を収集し、感受性測定を行う予定である。
- 7) 第10回(2019年)
 - ・呼吸器感染症(9回目:目標1,100株)
2020年5月末までに菌株を収集し感受性測定を実施する予定である。
 - ・皮膚科領域感染症(2回目:目標1,000株)
2019年12月末までに菌株を収集し感受性測定を実施する予定である。
- 8) VRE株の収集(三学会合同リネゾリド適正使用推進委員会からの依頼)
第3回(最終)(収集期間2018年6月~2019年5月)を実施し感受性測定
結果を報告書にまとめる予定である。
- 9) ホームページの更新
各領域の確定結果をデータベースにアップデートする。

10. レジオネラ治療薬評価検討委員会

サブ解析の画像をJICに投稿する予定である。

11. 抗菌薬TDMガイドライン作成委員会

第67回総会で「抗菌薬TDMガイドライン2019:再改訂のポイント」のシンポジウ

ムを開催し、ガイドラインドラフト版を2019年12月に発表して、パブリックコメントを求め、年度内での発行を目指す予定である。

12. JAID/JSC感染症治療ガイド・ガイドライン作成委員会

- ・JAID/JSC 感染症治療ガイド2019を発行する予定である。
- ・「JAID/JSC 感染症治療ガイドライン 2018—男性尿道炎とその関連疾患—」をJICに投稿する予定である。

13. MRSA感染症の治療ガイドライン作成委員会

- ・新規抗MRSA薬（テジゾリド）に関連した改訂版「MRSA感染症の治療ガイドライン改訂版2019」をホームページに掲載する予定である。（冊子版は作成しない。）
- ・Mindsに基づいて、MRSA感染症の治療ガイドラインの改訂作業を実施する予定である。

14. 術後感染予防抗菌薬適正使用に関するガイドライン作成委員会

術後感染予防抗菌薬ガイドラインの眼科領域および脳神経外科領域の追補を発行する予定である。

15. CDI診療ガイドライン作成委員会

「*Clostridioides (Clostridium) difficile* 感染症診療ガイドライン」の英訳版の作業を行う予定である。

16. 多剤耐性菌に対する治療戦略ワーキング委員会

カルバペネム耐性腸内細菌（CRE）による感染症の治療法に関する基礎的検討結果を第67回総会で発表する。

17. 7学会合同感染症治療・創薬促進検討委員会

「創薬促進に求められる産官学連携（仮題）— 感染症治療・創薬促進委員会からの提言—」について検討する。

18. 抗微生物薬適正使用推進検討委員会

- ・前年度と同様のアンケートを行い、「抗菌薬適正使用支援加算」導入後の変化を評価する。
- ・「抗菌薬適正使用支援プログラム実践のためのガイダンス（ASPガイダンス）」の改訂作業を行う

19. 将来計画検討委員会

67回総会時に委員会を開催し、今後の学術集会の開催のあり方について検討する予定である。

20. 外来抗菌薬適正使用調査委員会

「抗菌薬適正使用に関するアンケート調査」の結果を和文誌およびJICに投稿する予定である。

21. 関連学会対策ワーキング

- ・日本化学療法学会の医師会員を増加させることを目的として関連学会との連携を強化するために、4月に開催した日本感染症学会との合同シンポジウムを開催した。
- ・日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会、日本性感染症学会、日本泌尿器科学会、日本小児感染症学会、日本呼吸器学会、日本骨・関節感染症学会、日本眼感染症学会、日本消化器病学会、日本外科感染症学会などと合同シンポジウム開催に向けた調査・検討を継続する。

22. 学術集会開催支援ワーキング

各学術集会の予算書および業務委託に関する見積書を確認する予定である。

23. 薬剤耐性感染症を対象とした抗菌薬ガイドライン作成に関する合同委員会

今後上市される新薬について、従来の疾患ベースの評価方法では薬剤の特性を生かせない可能性がある。そこでpathogen specificの観点や、シングルアームでの評価法など、自由な発想で検討する。

24. 社会保険委員会

医療機器・体外診断用医薬品供給停止品目および経過措置移行予定品目や2020年診療報酬改定に関する検討を行う予定である。

25. 利益相反委員会

日本医学会の動向をみて、利益相反指針および細則を改定する予定である。

26. 倫理委員会

要望があれば適宜、対応していく予定である。

27. インфекションコントロールドクター(ICD)制度

申請締切：2019年10月31日